



少々、かたい話から入りますが…。

文部科学省から数年おきに、学習指導要領なるものが改訂され公示されています。これは、児童・生徒に身に付けさせるべき学力等を明記したもので、時代の流れや要請に応じて数年おきに追加・変更・削除され、周知される一種のきまりのようなものです。というのは、どの都道府県でも市町村でも、等質の教育を提供することが義務教育の使命ですので、こういった一定の標準的なことをきちんと知らしめる必要があるからです。

さて、文科省のHPには今回の改訂に関するお知らせが載っています。右はその一部を抜粋したもので、ご覧のように理科と数学(算数)を充実するとあり、それによって理科の

4. 教育内容の主な改善事項

言語能力の確実な育成

- ・発達の段階に応じた、語彙の確実な習得、意見と根拠、具体と抽象を押さえて考えるなど情報を正確に理解し適切に表現する力の育成(小中:国語)
- ・学習の基盤としての各教科等における言語活動(実験レポートの作成、立場や根拠を明確にして議論することなど)の充実(小中:総則、各教科等)

理数教育の充実

- ・前回改訂において2~3割程度授業時数を増加し充実させた内容を今回も維持した上で、日常生活等から問題を見いだす活動(小:算数、中:数学)や見通しをもった観察・実験(小中:理科)などの充実によりさらに学習の質を向上
- ・必要なデータを収集・分析し、その傾向を踏まえて課題を解決するための統計教育の充実(小:算数、中:数学)、自然災害に関する内容の充実(小中:理科)

目標も変更されています。簡潔にお伝えしますと、「科学的な見方や考え方を養う。」から、「理科



の見方・考え方を働かせ、…問題を科学的に解決するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。(1)…(2)問題解決の力を養う。(3)…」とずいぶん増えています。6年生が4月に受けた『全国学力・学習状況調査』でも理科がありました(来年はありません。ある年とない年があるのです)。つまり、それだけ国が理科教育を大事にしたいという気持ちの表れかもしれませんね。

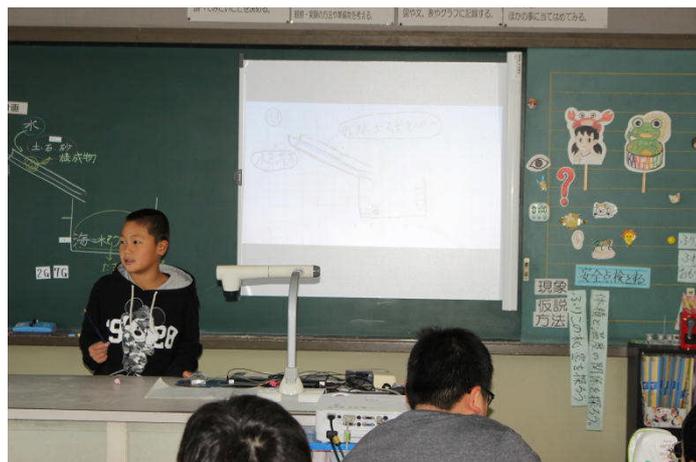
6年生の理科の教科書に『大地のつくりと変化』という単元があります。先日、授業に行ってきました。学習指導案(授業の計画や方針)に目を通すと、単元目標に「…地震や火山活動の変化と災害とを関連付けて調べ、大地の変化をとらえるとともに…」とあり、また評価規準(児童を評価する際のめやす)の中にも、「…自然災害に目を向けながら調べようとしている」



【裏面に続く】

と書いてあり、上記の文科省の内容がきちんと表現されていました。今年のように、全国各地で起こっている災害(いえいえ、私たちも例外ではなかったです)を目の当たりにすると、実生活に根ざした学習の大切さを痛感せざるを得ません。自身や家族の命を守るための勉強を、学校でもしていると言っても過言ではないでしょう。

但し、このようなことは何も理科に限ったことではありません。今後子どもたちが生きていくために必



要なこととして、ありとあらゆる学習が学校で行われています。一例を挙げますと、情報を正しく判断したり、情報を正しく発信したりするためには国語の力が必要です。世の中の常識や習わし・仕組みを理解し、それに応じて生活していくためには社会の力。そして金銭感覚や経済観念を培うには、先を見越し結果を予測できるような数学的な思考が必要かもしれません。さらには、健康で文化的な生活を維持するための教科も学校にはあります。もちろんルールやモラル、マナーを知り実行できる道徳力も忘れてはなりませんね。

今回の授業で感じたことがもうひとつあります。このところ研究授業が続いており、他学年に続いて6年生の授業を見たので、よけいにそう感じたのかもしれません。何かと言うとそれは話を聞くこと。先生の話聞くのは当たり前と思った方は不正解。とにかく友達の意見を聞く姿勢が、しっかりしていることが手に取るようにわかりました。いつもそんなんだな納得できる雰囲気でした。四箇郷の6年間の歳月で、こんな子たちが育っているとすればうれしいことです。もちろん個人差はあります。それぞれスタートもちがえば、ゴールもちがって当然。しかし、他人の意見に耳を傾けながら、自身の考えを確立していくという一連の行為は、これからの中学校生活に必要な資質だと思います。

学校開放月間は終わりましたが、気にせず来校していただいて構いません。お子様が、将来に備えて学習している様子を参観していただければ幸いです。もちろんその際、校長室に寄っていただくことも可能ですので。

